

## 列車内で連続して発生した暴力から 如何に安全を守るのか議論する！！

1月31日、名古屋地本は会社と「車内での緊急事態発生時に関する申し入れ」に対して業務委員会を開催しました。昨年連続した列車内における暴力事件などに、現場からの意見を反映させて、現場で働く組合員の安全、旅客の安全をいかに守るっていくのかを議論しました。「ワンマン列車は無防備ではない」「被害を受けたときは個人で訴訟」など本当に現場で働く者を守る考えがあるのか疑う回答もありました。組合は今後も最前線に立たなければならない組合員の立場を主張し続けます。回答と主な議論については以下のとおりです。

### 《申し入れと回答》

1. 京王線事件発生後、会社として再発防止策を検討したのか明らかにすること。

回答：これまでも様々なセキュリティー対策を講じており、一連の事件等を受けてより一層の安全確保に取り組んでいる。具体的には警備員による警乗、警察と連携した訓練の実施、車両へ防護盾の搭載などを実施している。今後も安全の確保に取り組んでいきたい。

2. ワンマン列車は、あまりにも無防備である。ワンマン運転をやめること。

回答：ワンマン列車が無防備であるとの認識はないため、そのような考えはない。

3. 緊急事態発生時の行動方を車内に表示し乗客へ周知すること。

回答：そのような考えはない。車内放送にて、緊急を要する場合には車内の非常ボタンを押して乗務員にお知らせ頂くよう周知している。

4. 事象は千差万別である。実態にそぐわないマニュアル作成はやめること。

回答：会社が適切に対応する。

## 《主な議論》

組合: 対策を行って車内暴力を100%抑える事は無理であると考え。しかし、減らすという対策よりも起こさない対策を重要にしていきたい。最近のニュースでは誰かを巻き込んでとい犯罪が多い。安全の確保に向かい議論を進める。

回答にあったように列車に「防護盾」を搭載したが、その目的を明らかにすること。

会社: 身を守る物である。

組合: 盾を持って相手と対応すれば、相手は盾は防護するために持っているものではなく、攻撃をしてくるときの道具と思うのではないか。

会社: 身の危険を感じてまでやれとは言っていない。

組合: あまりにも現場任せである。

会社: 現場の状況が分からない中で、会社からは細かな指示は出せない。

組合: ワンマンは無防備でないと認識していると回答したが、乗務員が一人しかいないのは、対応も報告も遅れることにつながる。防備が弱いと言うことは認識すべきだ。

会社: 訓練等で安全確保に取り組んでいる。

組合: 以前、暴力を受けてケガなどした場合に民事で訴訟する場合は、個人で行うように会社は言ってきたが、会社が責任を持ち行うべきだ。

会社: 個人間のものは個人でやってもらう。

組合: 業務上発生した事件であるならば、当然会社が前に出るべきだ。

会社: 刑事事件ならば判断は警察が行う。ケガがあった場合は労災で対応する。

組合: そのような現実ならば、現場で暴力に対応できない。守ってもらえているという気持ちがあるから前に出れるのではないか。弁護士の紹介もないのか。

会社: アドバイスはするが、個人で訴訟してもらう。

組合: 京王線事件以降、列車は密室であるという報道がなされた。密室だから他人を巻き込みやすいと考えるのではないか。そうではないとアピールすべきではないか。

会社: 京王線事件でも別の車両に逃げている映像もあった。列車は密室ではない。

組合: 京王線事件から見ればホームドアがあり列車のドアが開けられなかった。

会社: 可動柵を開ける訓練をしている。

組合: 非常ブザーが扱われたら、直ちに列車を止めるという扱いで良いのかも議論する必要があるのではないか。

会社: なぜ押されたのか分からない中ではまず止めるが基本になる。今後の課題でもある。

組合: 事細かな対策やマニュアルを求めてはいない。様々なケースがあり、対策やマニュアルでは対応できない。またそれが、対応不足と言われる結果にもなる。事件を発生させないためにどうしていくのか。今後も安全の確保に向かい議論を進ていく。

以上